

第2回塩竈市震災復興計画検討委員会の概要について

日 時 平成23年7月5日(火) 13:30~15:50

場 所 本庁3階北側委員会室

出席委員 首藤委員長、新妻副委員長、小玉委員、姥浦委員、桑原委員、志賀委員、阿部委員、太田委員、土井(俊)委員、土井(萬)委員、日野委員、小野委員、和田委員

欠席委員 鶴飼委員、千葉委員

塩竈市 市長、副市長、各部長

宮城県 仙台地方振興事務所長、仙台土木事務所長、土木部港湾課長

事務局 震災復興推進室

津波による被害状況説明 アジア航測(株)

司 会 震災復興推進室長

1. 開会

2. 首藤委員長挨拶

本日は暑いところ、皆様お集まりいただきましてありがとうございます。

今日は第2回目でございます。津波とはどんなものか、どんな大きさなのかについて、イメージがわくような資料が出ておるようです。復興計画の基本方針を煮詰めていく方向で、いろいろご議論を願いたいと考えております。よろしくお願いたします。

3. 審議事項

- (1) 計画書の構成例と検討スケジュールについて
- (2) 津波による被害状況と復興の課題について
- (3) 塩竈市震災復興計画基本方針(素案)について

【計画書の構成例と検討スケジュールについて】

委員

中間のまとめはどのようになるのですか。

事務局

9月市議会に向けて中間報告の取りまとめを考えています。

委員

委員長、副委員長に議会へ中間報告をしていただいて、議会の声も聞いていただけたらと思います。

委員長

なるべく議会と連絡をとり、協力して進めなければいけませんから、第4回の検討委員会で大体の形がまとまれば、それを議会にご連絡する段取りではどうですか。

事務局

9月11日に選挙がありますので、具体的な日程等については委員長と相談したいと思います。

【津波による被害状況と復興の課題について】

委員

浦戸の人口分布図、高齢化率状況図について、各島全体での色付けではなく人口密度の多い所、高齢者が集まっている所に色を付けるべきではないですか。

アジア航測

浦戸については町丁目界がはっきりしていませんでしたので、全体でお示しました。

委員長

島全体として見てしまうと実感が湧かないですよ。できれば修正をお願いします。

事務局

次回の委員会までに修正いたします。

副委員長

観光客がどのくらい減っているのか、港湾機能がどれくらい失われているかなど、アクティブティ(活気)に関する被害状況が重要だと思います。また、他の県や日本全体に比べて塩竈はどういう状況にあるかというのも重要だと思います。

アジア航測

今回の資料は平面的に津波の被害と何処まで被ったかを整理した資料です。観光については改めて整理する必要があると思います。

委員長

観光に限らず、産業全体ですね。

委員

観光に関わらず、産業・商業について、被害がどのくらいなのか観光・産業・商業・に関して具体的な数字と、概略でいいので去年の売上とどの位違うのかがあれば良いと思います。

アジア航測

被害状況については、まとめ次第、ご報告させていただきます。

委員

「就業人口及び事業所数」の浦戸の欄について、飲食サービス業が39.8%とあり、H21経済センサス資料となっているが、実態に合わない数字だと思います。

事務局

H21経済センサスは、事業を営んでいる全ての所に調査員がお伺いして調査を行い、ご回答をいただいたものです。2年前の調査ということで、現在の実態と合わない部分もあるのではないかと思います。

委員

議題2の「津波による被害状況と復興の課題について」のタイトルはこのままでよいのですか。復興にするのであれば、産業構造を含めた形で議論するべきだと思います。また商業・港街と練り製品が日本一なので、復興の課題にどのように位置付けていくかと言うのを入れていくべきだと思います。課題を議題そのものについて言うのか、資料として名前を変えて出すのか、どのようにしたら良いのでしょうか。

委員長

「課題について」の後ろに「その1」と入れましょう。今のようなところに復興の課題がありますし、足りないものを今後、調査、補足するという形にして、最終判断へ持っていくという事にしたいと思います。

委員

塩竈が東北で、宮城県で、日本でどういう位置付けにあるのか、塩竈がどのような役割を果たして行くのか、その認識が重要だと思います。地元学的な、塩竈発見と言いますか、そういうところをまとめた方が将来を考える上で良いと思います。

委員

浸水エリアのうち、どの程度が工業系の土地利用で、どの程度が商業系かなど、土地利用と産業の金額をリンクさせた形が良いと思います。

委員

今年から始まる長期総合計画の策定の際、分析や市民のアンケート、住民懇談会も行っているのです、それをうまく利用したら良いと思います。当時の案が駄目になっているものがあるかもしれないし、整理して進めたら良いと思います。

委員長

その辺のリンクを詳しくやっていけば、先ほど委員から出た意見なども、きれいにまとめると思います。

委員

塩竈市の長期総合計画は、平成23年度から平成32年度までの計画ですので、その中で今回の地震により直して行くところと、急ぐ必要がある部分がありますから、長期総合計画と見合わせながら、検討委員会を進めて行くべきだと思います。

事務局

今年4月から第5次長期総合計画がスタートしています。その策定の過程で市民の皆様の声や議論を重ねた内容の資料がありますので、参考になる資料をお出ししたいと思います。

【仙台塩釜港 津波防災対策について 宮城県土木部港湾課】

委員

資料1ページの浸水範囲で、新浜町が全部塗られています。ここまで浸水はしていないと思いますが。

宮城県土木部港湾課

出典元は、国土地理院HPでの浸水範囲を使わせていただいております。現在、いろいろな所でまとめている段階なので、きちんとリンクした図面が出来上がってくるかと思っています。

委員長

現地を歩いて浸水末端を調べ、更に詳しいものが出来上がっていると思います。今の段階で若干の食い違いがあるのは仕方がないと思います。

委員

レベル1とレベル2で防潮堤を造るとして、津波がレベル1を超えて来たとき、防潮堤の内側に水が溜まり、今まで浸水しなかった新浜町などに水が入ってこないですか。

宮城県土木部港湾課

津波が防潮堤を超えようとして遡上で上がり、超えて溜まって、また超えて溜まって風呂桶のようになります。どのくらいの高さにすればレベル1を止められるのか、また、+ を設けることで、せり上がりの部分が超えて来ないようにというところを検討しています。

委員長

9ページに仙台湾沿岸の堤防高は高潮で決定とありますが、これによろしいのですか。

宮城県土木部港湾課

現在の堤防については、高潮に必要な高さが決定されています。

委員長

塩釜港はチリ津波で決定されているのではないのですか。

宮城県土木部港湾課

チリ地震津波の痕跡高の一番高い点で、湾内全部を整備しています。

委員長

9ページに、仙台湾沿岸の堤防高は高潮で決定とありますが、そうではないということですか。

宮城県土木部港湾課

石巻や矢本は高潮で決定していますが、塩竈と松島についてはチリ地震の痕跡高で防潮堤を造っていますので、9ページの資料は誤りでした。

委員

決定というのは、これから決定するということですか。それとも決定した事を書いているのですか。

宮城県土木部港湾課

決定されて、整備されているという事です。

委員長

12ページで、計算上は水が来ていないが、新富町などに水が入っているような色になっているという話でした。下水処理が海に直接繋がっていると、それを伝わって逆流して溢れることが現実起きています。

地盤の低い所の処理水がどのように海に出されているかについて気をつけてください。

委員

11、12ページの想定地震による津波浸水予測結果について、想定されている堤防高はどれくらいですか。また、14ページの青、赤、黄色の色分けはどのような意味ですか。

宮城県土木港湾課

11ページについては、現況の防潮堤の高さを考慮して計算しています。14ページの色分けの意味は特にないと思います。

委員

14ページでは、現形復旧でレベル1の防御は可能と言っているにも関わらず、11ページでは、明治三陸が来たら浸水することになっています。明治三陸は、レベル1を超えているのですか。

宮城県土木港湾課

明治三陸は、レベル1の想定津波です。中埠頭は、防潮堤が道路沿いにあるため、埠頭自体は冠水します。西埠頭は今検討中ですが、一部、低い所があり計算上は浸水する形となります。貞山通一丁目、埠頭については、高潮対策していませんので、被る形になります。

委員

チリ津波の後に港町地区に防潮堤が整備されて安心していたのですが、防潮堤を越えて港町に津波が来ました。15ページでは「従来の計画で津波レベル1の防御は可能」となっていますが、千年に一度の津波を想定して大丈夫としているのですか。

宮城県土木部港湾課

これまでの宮城県の三次、四次想定の中では、仙台港や石巻港の臨港道路を超えて津波が来るという想定はありませんでした。今検討している想定は、千年に一度の津波ではなくて、レベル1で想定する津波の中で1番高い津波です。今回の津波を経験した我々としては、より安全なものを造りたいということで、更に+を模索しています。

委員

多重防護のイメージは、岩沼、名取など広いところでは良いですが塩竈は非常に面積が狭く、このような計画が出来ない現状にあります。県では、狭い土地でもそれに匹敵するような、例えば仙石線の高架橋等を利用するようなハード面の計画はありますか。

宮城県土木部港湾課

二線堤、三線堤は誰がどういうスキームで造るのか、塩竈のように山が迫っている所で道路の高盛土が土地利用として出来るのかなど、これからのまちづくりと併せて議論していく必要があると思います。

委員

北浜に新しく造る防潮堤について、今回の地震により、高さの変更は検討しているのですか。

宮城県土木部港湾課

レベル1で、一番どれが高い津波かという中で、それを防げる高さにしていきたいと思います。ただし、その高さが北浜側とマリングート側で違うと問題なので、災害復旧する+と北浜の防潮堤とを合わせていきたいと考えています。

委員長

7ページの想定地震(作業中)とはどのような意味ですか。この4つの津波の中から、今、決めている段階という意味ですか。

宮城県土木部港湾課

「作業中」とさせて頂いたのは、塩竈については、この4つが代表的ですが、連動型でも三次想定、四次想定になっていますので、いろいろ作業中ということと、まだ計算途中というものもあります。

委員長

11ページを見ると、塩竈港区は明治三陸地震を想定地震としているという意味ですか。

宮城県土木部港湾課

一次検討の中で、既存津波を再現して入れたときに、明治三陸地震津波が一番高い数値が出ました。これについてはシミュレーションしかないので、想定地震としたほうが良いのではということで議論しています。

委員長

11ページを計算するとき、海岸施設は現況のものを使っているのですね。14ページでは、北浜については触れていませんが、北浜についても忘れられないようにしっかり手当して、原形復旧ではなく改良復旧のような言葉にして、いつの間にか将来計画が忘れられてしまわないような言葉遣いをしてほしいです。

宮城県土木部港湾課

今の防潮堤は、塩竈湾の中で一番高かった痕跡高をもとに決定しています。今回は今、計算していますが、明治三陸の高さが一番高くなるという考え方です。そこで、その高さ+チリ地震+の高さをクリアする高さとして既存の保全施設も復旧し、新たに北浜に整備する防潮堤もその高さにしていきたいということです。

委員

浦戸についてはどのように考えているのですか。

宮城県土木部港湾課

今現在、保全施設がない所に関しては、今後の対策について検討しています。

委員

今の段階では考えていないという事ですか。

宮城県土木部港湾課

具体的にどうするかについては、今後の検討になります。

委員

仙台塩釜港復興便りの復興のスケジュールに、仙台港区の航路・泊地のクラブ浚渫計画が載っていますが、塩釜港区は問題ないということですか。

宮城県土木部港湾課

仙台港区は津波により砂が入り浅くなったことが分かっているので、災害復旧で浚渫しようとしています。塩釜港区については、瓦礫は撤去しましたが、今後の調査で浅い所があれば災害復旧としての復旧を検討中です。

委員

レベル2を超えた時の対策は最後の一枚だけですが、おそらく今度の津波ではこういう所に登って、亡くなられた方が大変多い。千年に一度と言っても、来年かもしれないし、これを超えたときにどうするという所まで考えておくことが大切です。200年後、300年後も塩竈は存在していると思うので、今回の津波を教訓に練っておく必要があると思います。宮城県全土についてよろしくお願いします。

委員長

レベル2に関しては、例えば女川町で鉄筋コンクリートのビルがいくつも倒れましたから、簡単な条件下に津波避難ビルを指定して良いかなどの問題も残っています。県や中央防災会議の津波専門委員会で検討することですので、問題点を投げかけていきたいと思います。

委員

塩竈も、浦戸も山を後ろに背負っていますから、ソフト面も考えておくべきだと思います。

委員長

そういうものを忘れないように繋いでいく教育の話など、いろいろなものが出てきます。それは、レベル1対策がある程度進み、その次にもっと大きな津波について考えなければいけないと思います。

委員

15ページに「従来の計画で津波レベル1の防御は可能」となっていて、北浜緑地での津波レベル1対策とありますが、防潮堤の高さは決まっていないのでしょうか、具体的にいつ着工して、いつ頃までの工事を目指しているのか、教えてください。

宮城県土木港湾課

北浜緑地の防災対策については、昨年、用地補償が完了しましたので、工事中の仮堤防の工事を発注しています。今回、この高さが3.6mでいいのか、レベル1をクリアできる高さを設定して工事をしたいと考えています。時期については、平成27年度までに全てを完成していくことで変わりはありません。

【塩竈市震災復興計画基本方針（素案）について】

委員

今回、震災で一番困ったことは、連絡が取れないということです。塩竈だけではないのですが、災害時の最低限の連絡手段を市として持つべきだと思います。また、産業について、これを機会に加工団地を再整備してほしいと思います。これを逃してしまうと、あのままの状態では放置され兼ねないので、具体的なものを盛り込んでほしいと思います。

事務局

いただいたご意見については、基本計画の具体的な政策にも関わるものもあるかと思いますが、内部で各部会を開催し、各部ごとに復興・復旧にむけた問題・課題等について検討していますので、基本計画ができる段階までにそういった方向性をお示しできると思います。

委員長

今の委員さんのご発言は、5ページにある将来を見据えた水産都市としての一つの具体例として、基本方針を具体的に書く計画の中にその項目を落とさないで書かれていけば良いということによろしいですね。

委員

そうです。また、加工の強みを活かしていくのであれば、研究施設をぜひ持ってきていただきたい。他の地域との今後の競争で大きな強みになると思います。

委員

復興計画の期間について、県も市も10年ということで、塩竈市は前期、後期と5年、それに対し県は3段階ですが、県と連携を取りながら進めていく上で支障はないのですか。

事務局

計画期間については、市は前期5年、後期5年という形で案としてあげています。10年かけてゆっくり進めるのではなく、できる限り早めの対策を考えています。そのために11月頃を目処に震災復興計画を固めたいと思っております。県の3期に分かれた内容も具体的に固まったものではありませんので、市の計画と調整していく事は可能かと思えます。

委員

震災で被害を受けた所の復旧という意味ですか。新しいまちづくりも行うという事でしょうか。

事務局

皆様のご意見をいただきながら復旧で当面必要なものは行いながら、新しいまちづくりに向けた復興について当然進めなければなりません。今回の基本計画は第5次長期総合計画の安心・安全の分野も担っており、全体として長期総合計画の目指すものと一緒ですので、今後のまちの発展を見据えた復興というものを根底に考えています。

委員

今、復旧をしても10年後に石巻・気仙沼に塩竈が遅れをとる心配もあります。商工会議所でも復興のための委員会を結成し、まちづくりについて話し合いをしています。会議所の会員の皆様からのアンケートも出していますので、市と摺り合わせして、はじめて良い意見が出てくると思います。出来れば会議所の資料も出してもらった方が良いでしょう。

事務局

会議所も含めて、各会のヒアリングを進めております。個別の分野の問題、課題なども上がってきますので、その中の一つとして、そういったものも頂いて、この会議で議論していただきたいと思えます。

委員長

先ほど、長期総合計画との摺り合わせの話も出ていましたが、ぜひとも行っていただきたいと思います。

委員

将来を見据えた場合、石巻・気仙沼に対し、塩竈の市場が立ち遅れるという不安もあります。私も市場の代表として出ていますので、市場の買い付けに向けての三年後の話など、提案をしても構わないですか。

委員長

そういうご提案をまとめていくのは、復興計画という次の段階になると思います。今、この基本計画に対する賛成・反対の意見よりも、この部分をこういう風に適応してほしいという意見がたくさん出ていますので、この基本方針はこれで良い、ではこの次に基本方針に則って行く。市場、商工会議所はどうするという計画を長期総合計画とにらみ合わせながら、具体的に形を作る段階へ進みたいと思います。

委員

津波被害地区の復興について、甚大な被害を受けた地区については地域とともに、そのランドデザインを再構築していくと書いてありますが、浦戸の特に寒風沢地区においては、家屋が流出して広大な敷地が出ている現状です。さらに高齢化に伴い、家を再生していくのは不可能に近い状態です。そういうこともあり、土地そのものを、行政で買い上げて、将来の有効な市の土地として活用していただきたいと考えていますが、如何でしょうか。

委員長

「ランドデザインを再構築していく」と書かれていますから、このことをもっと具体的にしっかりやってほしいという事です。そういう方向で非常に強い要望がありましたから、この次の段階ではそういう形の可能性をいろいろ検討してください。

委員

通信連絡網を市として取り組むべきというご意見がありましたが、もっと広域で考えた方が良いと思います。震災時・大きな事件・事故がある度に携帯電話が繋がらない。こういう場合いつでも連絡をとれるように、市・県レベルではなくて国のレベルに対して情報の発信として取り組みを加えていただきたいと思います。

委員

各所からいろいろ意見を出して良いということでしたが、かなり膨大な量になると思います。あくまで、塩竈の復興を考えていくなれば大きな目でみて話していかないと、まとまりがつかなくなると思います。

委員

素案に関して全部は無理なので、順番をつけて、ここから具体的にやって行きましょうとしたほうが県や国もお金を出しやすいと思います。先ほどお話がありましたが、私も新浜町は練り物特区にした方が良いと思っていて、石巻の業者が視察にきても地盤沈下が問題で帰っていく現状にあり、地盤沈下の問題がなければ女川や石巻の業者がたくさんきて加工業ができるわけです。地盤沈下を再興するために直して、そこに投資して利益を上げて、地域にお金を回して再興に繋げていくようなランドデザインができるはずですが、その議論がされていない。塩竈の歴史を調べましたが塩竈市は、外港として意義を持つ時しか歴史的に成長し得ない。やはり練り製品として地位を得てきたので、それを優先的に進めていくようなまちの在り方を議論しなければならないと思います。

委員

塩竈は水産のまちです。海から開けてきた所ですから、二次的な産業と捉えても良い所はあると思います。水産に対して構造的にもいろいろな意味で集中的な審議が必要だと思えます。

委員長

これはまだしばらく、素案のまま置いておきましょう。やはり具体的な話をしないと、物事が本当に見えてこないし、皆さんで共有するという事もできないと思う。長期総合計画が別にある、商工会議所でも案を持っている。そういったものを集めていくと、災害の前は塩竈はこうありたいと思っていた、そして、災害の後、そういう人達がどう思っている。それと結び合わせて、何処に重点を置くと塩竈の将来が見えるの

かということをもう少し絞って議論して、この委員会だけではなく、住民アンケートや集会で説明を行うなどして、塩竈の多くの人がある方向で良いとなれば、お金を重点的に使うところや順番、どの部分は我慢するという事でも出てくると思います。次の委員会まではそういうことでどうでしょうか。

委員

重点化の流れと逆かもしれませんが、外から来る人間にとっては観光・鮭・商業・神社、その辺りが重要なファクターとなっていて、そう考えると5ページに産業経済の復興として商工業と書いていますが、基本理念には基幹産業としか書いていなくて、基幹産業としては水産業・水産加工業と書いています。書き方として5ページを基幹産業というよりは水産業・水産加工業の再建・復興というタイトルにして、2ページは水産業・水産加工業だけではなく、商業や観光も含めて書いた方が良いでしょう。被害の状況を見て、やはり、観光業・宿泊業・飲食業も高いウエイトを占めていますので、その辺りの再生も重要だと思います。

委員長

具体的に塩竈の特長がどこにあるかを洗い出して、それについて各論をして、そして、またそれを統合したものに帰っていくというやり方が、具体的に進行すると感じています。

委員

6ページの浦戸の に、「今回の震災の影響によって、若年層の流出による人口減少と高齢化が一層進行すると予想される」とありますが、浦戸の意見として、漁師さん達が今度の震災で息子達が跡を継ぐと言っている人が出てきています。そういう中でこの表現はもっと工夫して下さい。

委員長

いろいろあると思いますが、素案の最終案を決めるときの宿題にいたしましょう。

事務局

次回は8月2日 火曜日 今日と同じ13時30分からです。よろしくお願いいたします。

委員長

それでは長時間ありがとうございました。これからもよろしくお願いいたします。

4. 閉会